

# 2173再構築 19

6タイプファクト：美  
エリー

## 6 ティファレト:美

### <調べた言葉>

び〔美〕

しゅう〔醜〕

はくあい〔博愛〕

そうあい〔相愛〕

はんあいしゅぎ〔汎愛主義〕

美とは、細部まで意識の行き届いた、「高密度の集中」をいうのではないだろうか。

たとえば、衣食住を満たすことだけ考えたなら、「コストを必要最低限に抑えたらいい」という話になる。

しかし、保護区の人々は聖なる人なのだから、そこには美しさも必要だろう。

それを作る人々に、「技術」を身につける機会を作ることも必要だろう。

くりぬいただけみたいな簡易な服を配れば安上がりだが、それでは、それを生産する子どもが技術を身につけ、実力を競う機会がない。

だから、ちょっと凝った、難しいものを作る。

細部まで気を配った、美的センスのある制服にする。

それがどんなか説明することはできない。

伝統を守るなら、着物だけど、洋服がいいと思う。

運動着と普段着と礼服がある。

下着類もいる。

ハンカチの類やタオルもいる。

生活に必要な基本的なものはすべて配給される。

食器類も、家も、簡易なものにはしない。

技術を要するものを作る。

たとえ、オートメーションで作るとしても、作りやすいものを作るのではなく、凝ったものを作る。

色は、白に指定されているが、制服などは、オーダーメイドでもいいくらい。

一斉に配るのは厳しいから、誕生日に新しい服が支給されることにしよう。

最先端の技術ではないが、丁寧な仕事を認める余裕がなければ、子どもを労働者として活用する意味がないだろう。

-----

2173再構築だけ考えたらそれで終わりなんだけど、ツイッターにメモした分をまとめておこう。

美には、人をひきつけるパワーがある。ずっと見ていたいとか、自分のものにしたいとか、中毒性がある。

一番に出てくるのは、女性の媚態。

それに対して、尊いものとして、あがめ、関心をひこうとする。

そういうのは、別に不快ではない。

破壊衝動を持つ方は不快になる。

破壊衝動の方は、被害者がいるから、そういう欲望を現実に満たすことは、犯罪になる。

そういう欲望があることは認められて、そういう趣向に合わせた映像商品はあるが、現実にやれば犯罪。

喉が渴いているのに、飲めない水のように。

破壊衝動を刺激して、いいことはない。

大切にする方でも、見られる側が望んでなければ、苦しいものになる。

挑発的な魅惑的な態度をかもしだすことは、誰でもできるわけではない。

裸になれば、媚態が生まれるわけではない。

正装していても、官能的な魅力を持つ人はいる。

それがないのに、性を売り物にするには、本当に嫌なことをされて、本気で嫌がる姿を求められる。

最初は尊いもの扱いでデビューしたのに、嫌がることを強要されるようになって、いつの間にか消えていく。

そういうパターンがある。

嫌なことされても、現実に思えず反応が薄かったり、慣れてまたかと無感動になったら、面白くないからだろう。

悲しいくらいに使い捨て。

魅惑的であり続けることはとても難しい。

でも人は美を求めし、与えようとする。

狂う瞬間が欲しいともいう。

-----

見ているだけで幸せな気持ちになるのは、性だけではない。

子どもの笑顔も美しい。

また見たいと、甘くなる場所は、似ているかも。

-----

ある人を美しいと感じて特別注目することは、みんな個性的でみんなかわいいという博愛精神と対立する。心のままに、好きに注目すれば、平等ではない。

見たいものに注目したい自分と、みんなに心を配ることの間で揺れる。

差別しちゃいけないという理念に従って、好きを好きと言えない。

それは同時に、特別である自分も否定する。

誰にも注目されなくて悲しかったから、みんなには嫌な思いをさせないように、人前では自分の心を殺し、美醜の感情を隠す。

それは小さい子どものままの親切心。

何にでも関心を持って、誰でも話しかけられれば、懸命に答える。

だから、特別な存在になる、恋愛関係をうまく築けない。

相手を特別に思うところまではよくても、自分に注目が集まるとどうしていいか分からないから。

合理的判断でない返事をためらう。

わたしは美しいと思って、観衆の注目を全身に浴びて、平気でいられる人は、どんな気持ちなんだろう？

全員の注目を浴びてダンスを踊るシンデレラはどんな気持ちだろう？

王子とみつめあい、好意を態度に出して、それをみんなに見られる。

そんな瞬間に現実感を持てる？

わたしは持てないだろうなあ。なんか、他人のこのように思えちゃう。

櫻井さんを夢中で見ている、それを他人がみているわけじゃないし、櫻井さんから見つめ返されるわけでもないけど、最初は恥ずかしかった。

今は、わたしをわたしだと分からなくても、「今、視界に入っている」と思うと嬉しいけど。幻聴聞こえた時は、みんなに見られているようで、本当に嫌だった。

好きだから見たいと思うことは、そんな恥ずかしがることじゃなくて、普通だよ、って気づいて、幻聴聞こえても聞き流せるようになった。

美というと、他人にあるもので、自分は見とれる側というイメージしかないけど、見られる側ってどんなだろう。

大阪で土間に座ってお客さんを待つ姿を見に行ったことあるけど、自分なら誰も見てくれる気がなくて耐えられないと思ったなあ。

舞台に立つってどんな気分だろう？

楽しそうだけど、どうなんだろう。

セクシーポーズで、魅惑してくるんだけどもw

見られる喜びをわたしは知らない。

-----

美は、差異。同じ服を着て、同じ化粧をしても、同じ結果にはならない。絶対に差が生まれる。均質にするほど、小さな違いが、大きな差になる。

大きな違いを求めて違うことをすれば、平均的、感覚的美しさからは遠ざかる。

どちらにしる、あれとこれは違うという感覚から起きる。

多くの人が「美しいと感じる存在」はあるけれども、それを真似して、同じものになろうとしても、何かが違うと感じられる。

生まれ持ったものが違うから。

似合う服と、好きな服は違う。

美は個性の先にある。

だからどんな結果でも同じ扱いをする博愛とは対立する。

細部まで手入れした完璧な美と、手抜きでだれきった醜悪さを、同列にならべて、それでも「個性」であり「どちらもそれぞれによいところはある」というのが「博愛」なら、「向上を願う

気持ち」はどこへ持っていったらいいんだろう。

と思ったら、美には「優れている」という意味合いもあるらしい。  
だから、美しいことは立派なこと。醜いことはだらしがないこと。  
そういう意味があると知って、最初に書いた、「高密度の集中」という感想になった。

美は、どこまででも追及できてしまうので、「あきらめる」「手を抜く」とは対極にある。  
機能だけ考えたら、「そこまでしなくても」ってなるけど、美しいものは確かに人のところを動かす。

「どれだけ手間をかけられるか？」とも言えるから、「無駄」「贅沢」にもつながる。

-----

保護区は、自然を保護することが目的なので、パーマをかけたり、染めたりすることは、水質保全のために認められない。

でも髪の長さまで決めたら、誰も住む人がいなくなると思う。

どうしても染めたり、パーマをかけたりしたかったら、休日に自由区に出て、自由区でやってもらうことになる。

そこまでこだわらない人は、保護区を回っている美容師さんに切ってもらおう。

ララは、体が弱くて、自分で自分の髪を洗うのが大変なので、ベリーショートに近い長さ。  
でも本当は伸ばしたいと思っている。

子ども時代のララは、ソフィーが洗っていたので、長かった。

パツツン前髪に、ツインテール、を一応想像しているけど、たぶん、そこまで細かい設定は作らないと思う。

13歳で入寮した時にバツサリ切った。

とても悲しかったが、切ってしまう子どもが多いので、「みんなも悲しいんだから」と口には出さない。